

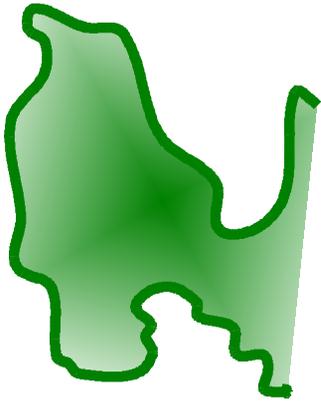
企画・編集・発行 清里まちづくり協議会 事務広報部会

清里まちづくり協議会事務局

〒370-3573 前橋市青梨子町339 清里公民館内

TEL251-9005 FAX255-0341

http://www.city.maebashi.gunma.jp/まちづくり・市民参加



## 清里まちづくりについて

### I まちづくり事業の地域指定

平成18年4月から行政と地域が一体となったまちづくりを目指し、五地区がモデル地区に指定された。モデル地区を受け、高崎経済大学、桜井常矢教授の指導を受けながら地区内の諸問題やこれからのまちづくりの方向性などについて協議が進められた。

### II 共通テーマが設定されるまで

#### (1) 社会的・時代的な要請から

戦災の廃墟から立ち上がったわが国の経済は隆盛し、世界第二の経済大国になった。しかし、バブル崩壊後には土地の資産価値の下落、低金利政策による底なしのデフレ、さらには百年に一度といわれる世界的不況などの変化により国民は資産価値から生活価値を追求する時代となった。各種世論調査の結果を見て

も都市住民の関心はもっぱら暮らしの安全、安心と豊かさの確保のための投資に向かい、また若い世代は生活価値を大切にしている傾向となっている。



清里まちづくりだんべえ (第31回清里地区文化祭)

また、少子高齢化社会にあつて、国民は生活の利便性や快適性を保証できる住環境を創造し、暮らしの安全・安心が確保できるようなシステムや多彩な余暇・文化活動の組織づくりや良好な人間関係づくりに努め、より良い生活サービスの質をならびに「コミュニティの質」を向上させる工夫、努力が求められている。さらに、高齢化の進行により農業従事者の半減と遊休農地の激増が懸念されている。定年後の退職者は、余生を「生き甲斐」をもつて暮らせる「家庭菜園」やガ

ーディングができる郊外の「暮らし」を求める者が多く「農住共存型」のまちづくりへの期待が高まっている。

### (2) 地域の実態から

清里という地名の誕生は、明治二十二年の町村合併に始まる。池端、青梨子、野良犬のヘンやつくりを組み合わせ「清里」という村名が生まれた。県下でも規模は小さいが、村柄もよく、人情に富み、勤労を愛し、一致団結して村づくりに邁進して来た輝かしい歴史



好評いただいた清里焼き (第31回清里地区文化祭)

史をもち、自治旗を授与された「模範村」であった。また、当地域は昔から養蚕製糸が主産業であった。しかし、産業構造の変化により、現在では枝豆、玉

ねぎ、ブロッコリー、ほうれん草などの野菜類が生産主体となり、その品質の良さから「清里ブランド」といつても良いほどに市場で高い評価を得ていると聞く。

一方、この地域にも昔から代々継承されてきたふるさと料理、郷土料理がある。例えば、お切りこみ、焼き餅、すいとん、ふかし饅頭、きんぴらなど色々ある。しかし、最近食嗜好の変化や家庭の主婦の職場への進出等により家庭の手づくり料理が出来なくなると、勢い身近なスーパーへと足が進み、そこで惣菜や各種食品を購入する傾向が多くなり「おふくろの味」が次第に薄れているように感じられる。

### ○ 地域の伝統的な文化・行事から

この地域には江戸時代に活躍した上青梨子町の葛西玄冲や助産婦として活躍した津久井いそ、養蚕飼育の改良に尽力した前原の井草太郎右衛門、上州座繰器の改良をして有名な高橋邦七、萬右衛門、親子がいる。

特に松下政右衛門は適蚕流の普及に努め、さらに句座を開き、その宗匠として俳句の普及に努めたため、その関係で前原には今でも俳句を趣味としている人が多い。また、他地域では池端町、青梨子町の十日夜、上青梨子町の盆踊りと百万遍、青梨子町の天神待ち、清野町の市指定重要有形民俗文化財の獅子舞などがある。これらのものは郷土の誇りとして保存、継承されていかなければならない。

忘れてならないのは前原出身の井草準一氏の活躍である。先生は東京大学理学部数学科を首席で卒業後、現代数幾何学のメッカと言われた京都大学の助教、その後優秀な頭脳流出の一人としてアメリカのジョンズ・ホプキンズ大学の助教授として迎えられた。その後同大学の主任教授としてアポロ計画やアメリカ数学会（誌）編集長の要職について世界の数学界をリードしている。

○「清里地区民の意向把握のためのアンケート調査」から

（平成十三年十二月調査）

地区住民は居住環境について約8割強が満足している。その理由は静かで緑が多く市街地に近い。人柄がよく文化程度が高く犯罪や災害もなく子育てがしやすいなどをあげている。



おそばのコーナーも定着  
（第31回清里地区文化祭）

「住宅団地や宅地化を進め地区の発展を図りたい」が5割強となっている。その他、地区内の生活道路の整備や駒寄インターチェンジの早期実現とアクセス道路の整備が強く求められている。以上のような趣旨を踏まえて、まちづくりの共通テーマとして『心豊かで、活力あるまちづくりをしよう』を設定した。

III 実践テーマについて

1 地区住民が心をあわせて喜んで参加出来るようにする。

- 1 伝統的文化・行事見直しと活性化部会（子ども夏まつり、清里ふるさと祭・清里花火）
- 2 郷土料理と食育部会（清里焼き、そば打ち教室）
- 3 花いっぱい運動の推進
- 4 社会福祉部会（子育てサロン、いきいきふれあいサロン）
- 5 事務広報部会（まちづくり広報等発行）



地域に広がる花いっぱいの輪  
（青梨子町地内）

IV 「まちづくり」をする上での基本的態度

- 2 身近なことから焦らずゆっくと住人の充足感が得られるようにする。
- 3 地区住民の人間関係、連帯意識が高まり新たなコミュニケーションづくりが出来るようにする。
- 4 人づくりという基本的な態度で青少年の健全育成を図るようになる。
- 5 地域の伝統的文化や郷土料理の継承であるようにする。
- 6 地区住民を「その他大勢」となるようなことにならないよう全員で取り組むようにする。
- 7 これからの「まちづくり」は、「自分たちのまちを、自分たちの力で、住みやすい安全・安心のまちをつくる」という考えに立って当たる。

清里まちづくり協議会 組織図

